



ONTAP

コマンドラインインターフェイスを使用してく
ださい

ONTAP 9

NetApp
April 24, 2024

目次

| | |
|---------------------------------------|----|
| ONTAP コマンドラインインターフェイスを使用してください | 1 |
| ONTAP コマンドラインインターフェイスを使用する | 1 |
| CLI コマンド用のシェルの種類について（クラスタ管理者のみ） | 1 |
| CLI コマンドディレクトリの移動方法 | 3 |
| CLI で値を指定する際のルール | 4 |
| コマンド履歴の表示方法とコマンドの再発行方法 | 5 |
| CLI コマンドを編集するためのキーボードショートカット | 5 |
| 管理権限レベルの使用 | 7 |
| CLI で権限レベルを設定します | 8 |
| CLI で表示環境を設定します | 8 |
| クエリ演算子の使用方法 | 9 |
| 拡張クエリの使用法 | 10 |
| フィールドを使用した show コマンド出力のカスタマイズ方法 | 11 |
| 位置指定パラメータについて | 12 |
| ONTAP マニュアルページへのアクセス方法 | 14 |

ONTAP コマンドラインインターフェイスを使用してください

ONTAP コマンドラインインターフェイスを使用する

ONTAP コマンドラインインターフェイス（CLI）は、コマンドベースの管理インターフェイスです。ストレージシステムプロンプトでコマンドを入力すると、コマンドの結果がテキストで表示されます。

CLIコマンドプロンプトは、のように表示されます `cluster_name::>`。

権限レベルを設定した場合（つまり `-privilege` のパラメータ `set` コマンド）をに移動します `'advanced'` プロンプトにアスタリスク（*）が表示されます。次に例を示します。

```
cluster_name::*>
```

CLI コマンド用のシェルの種類について（クラスタ管理者のみ）

クラスタには、CLI コマンド用の異なる 3 つのシェルとして、`_clustershell_`、`_nodeshell_`、`_systemshell_` があります。各シェルの用途は異なり、それぞれに異なるコマンドセットがあります。

- クラスタシェルは、クラスタにログインすると自動的に開始されるネイティブシェルです。

クラスタの設定と管理に必要なすべてのコマンドが含まれています。クラスタシェルのCLIヘルプ（によってトリガーされます？（クラスタシェルプロンプト））には、使用可能なクラスタシェルコマンドが表示されます。。 `man command_name` クラスタシェルのコマンドを実行すると、指定したクラスタシェルコマンドのマニュアルページが表示されます。

- ノードシェルは、ノードレベルでのみ有効なコマンドのための特別なシェルです。

ノードシェルには、からアクセスできます `system node run` コマンドを実行します

ノードシェルのCLIヘルプ（によってトリガーされます？または `help`（ノードシェルプロンプト））には、使用可能なノードシェルコマンドが表示されます。。 `man command_name` ノードシェルのコマンドを実行すると、指定したノードシェルコマンドのマニュアルページが表示されます。

よく使用されるノードシェルコマンドとオプションの多くは、クラスタシェルにトンネリングまたはエイリアスされ、クラスタシェルから実行することもできます。

- システムシェルは、診断とトラブルシューティングの目的に限り使用する低レベルのシェルです。

システムシェルおよび関連する「タグ」アカウントは、下位レベルの診断用です。アクセスには `diagnostic` 権限が必要で、テクニカルサポートがトラブルシューティングタスクを実行するために予約されています。

クラスタシェルでのノードシェルのコマンドおよびオプションへのアクセス

ノードシェルのコマンドとオプションには、ノードシェルからアクセスできます。

```
system node run -node nodename
```

よく使用されるノードシェルコマンドとオプションの多くは、クラスタシェルにトンネリングまたはエイリアスされ、クラスタシェルから実行することもできます。

クラスタシェルでサポートされるノードシェルオプションには、を使用してアクセスできます `vserver options clustershell` コマンドを実行しますこれらのオプションを表示するには、次のいずれかを実行します。

- を使用してクラスタシェルCLIを照会します `vserver options -vserver nodename_or_clustername -option-name ?`
- にアクセスします `vserver options` を使用したクラスタシェルCLIのマニュアルページ `man vserver options`

クラスタシェルでノードシェルまたはレガシー ONTAP のコマンドまたはオプションを入力した場合、そのコマンドまたはオプションに相当するクラスタシェルコマンドがある場合には該当するクラスタシェルコマンドを使用するように通知されます。

クラスタシェルでノードシェルまたはレガシーのコマンドまたはオプションを入力した場合、そのコマンドまたはオプションについて「not supported」ステータスが ONTAP から通知されます。

使用可能なノードシェルコマンドを表示します

ノードシェルから CLI ヘルプを使用すると、使用可能なノードシェルコマンドのリストを取得できます。

手順

1. ノードシェルにアクセスするには、クラスタシェルのシステムプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
system node run -node {nodename|local}
```

`local` は、クラスタへのアクセスに使用したノードです。



。 `system node run` コマンドにはエイリアスコマンドがあります。 `run`。

2. 使用可能なノードシェルコマンドのリストを表示するには、ノードシェルで次のコマンドを入力します。

```
[commandname] help
```

、 `_commandname_` は、可用性を表示するコマンドの名前です。を含めない場合
、 `_commandname_` を選択すると、使用可能なすべてのノードシェルコマンドが表示されます。

入力します `exit` または、`Ctrl+D`を入力してクラスタシェルCLIに戻ります。

利用可能なノードシェルコマンドを表示する例

次の例は、node2という名前のノードのノードシェルにアクセスし、ノードシェルコマンドの情報を表示します environment :

```
cluster1::> system node run -node node2
Type 'exit' or 'Ctrl-D' to return to the CLI

node2> environment help
Usage: environment status |
      [status] [shelf [<adapter>[.<shelf-number>]]] |
      [status] [shelf_log] |
      [status] [shelf_stats] |
      [status] [shelf_power_status] |
      [status] [chassis [all | list-sensors | Temperature | PSU 1 |
PSU 2 | Voltage | SYS FAN | NVRAM6-temperature-3 | NVRAM6-battery-3]]
```

CLI コマンドディレクトリの移動方法

CLI のコマンドは、コマンドディレクトリ別の階層に整理されています。完全なコマンドパスを入力するか、ディレクトリ構造を移動することで、階層内のコマンドを実行できます。

CLI を使用するときには、プロンプトにディレクトリの名前を入力し、Enter キーを押すと、コマンドディレクトリにアクセスできます。ディレクトリ名がプロンプトテキストに表示され、適切なコマンドディレクトリとやり取りしていることが示されます。コマンド階層のより下層に移動するには、コマンドサブディレクトリの名前を入力し、Enter キーを押します。サブディレクトリ名がプロンプトテキストに表示され、コンテキストがそのサブディレクトリに移動します。

コマンド全体を入力すると、複数のコマンドディレクトリを移動できます。たとえば、を入力すると、ディスクドライブに関する情報を表示できます storage disk show プロンプトでコマンドを入力します。また、次の例に示すように、一度に 1 つのコマンドディレクトリを移動して、コマンドを実行することもできます。

```
cluster1::> storage
cluster1::storage> disk
cluster1::storage disk> show
```

コマンドに最小文字数を入力してコマンドを現在のディレクトリに対して一意にすると、コマンドを省略できます。たとえば、前の例のコマンドを省略するには、と入力します st d sh。また、Tab キーを使用して省略したコマンドを展開し、デフォルトのパラメータ値を含むコマンドのパラメータを表示することもできます。

を使用できます top コマンドを入力してコマンド階層の最上位に移動すると、が表示されます up コマンドまたは .. コマンドを入力すると、コマンド階層の1つ上のレベルに移動します。



CLI でアスタリスク (*) を付けたコマンドおよびコマンドオプションは、advanced 権限レベル以上でのみ実行できます。

CLI で値を指定する際のルール

ほとんどのコマンドには、1 つ以上の必須またはオプションのパラメータが含まれています。多くのパラメータでは、値を指定する必要があります。CLI で値を指定するには、いくつかのルールがあります。

- 値には、数値、ブール指定子、事前に定義された値の列挙リストからの選択、またはテキスト文字列を指定できます。

一部のパラメータでは、2 つ以上の値をカンマで区切って指定できます。値をカンマで区切って指定したリストは、引用符 ("") で囲む必要はありません。テキスト、スペース、またはクエリ文字 (クエリを意図していない場合、または小なり記号または大なり記号で始まるテキスト) を指定する場合は、必ずエンティティを引用符で囲む必要があります。

- CLI は疑問符 ("" ? "") を解釈します。 をコマンドとして使用し、特定のコマンドのヘルプ情報を表示します。
- コマンド名、パラメータ、特定の値などの CLI に入力するテキストの一部では、大文字と小文字が区別されません。

たとえば、のパラメータ値を入力した場合などです `vserver cifs` コマンド、大文字と小文字の区別は無視されます。ただし、ノード、Storage Virtual Machine (SVM)、アグリゲート、ボリューム、論理インターフェイスの名前などのほとんどのパラメータ値は大文字と小文字が区別されます。

- 文字列またはリストをとるパラメータの値をクリアする場合は、空の一連の引用符 ("") またはダッシュ ("-") を指定します。
- ハッシュ記号 ("" #"") は、シャープ記号とも呼ばれ、コマンドライン入力のコメントを示します。使用する場合は、コマンドラインの最後のパラメータの後に表示されます。

CLI は行の末尾と "" #"" の間のテキストを無視します。

次の例では、テキストコメント付きで SVM が作成されます。次に、SVM が変更されてコメントが削除されます。

```
cluster1:> vserver create -vserver vs0 -subtype default -rootvolume
root_vs0
-aggregate aggr1 -rootvolume-security-style unix -language C.UTF-8 -is
-repository false -ipspace ipspaceA -comment "My SVM"
cluster1:> vserver modify -vserver vs0 -comment ""
```

次の例では、"" #"" 記号を使用したコマンドラインコメントは、コマンドの動作を示しています。

```
cluster1:> security login create -vserver vs0 -user-or-group-name new-
admin
-application ssh -authmethod password #This command creates a new user
account
```

コマンド履歴の表示方法とコマンドの再発行方法

各 CLI セッションには、そのセッションで実行されたすべてのコマンドの履歴が保持されます。現在のセッションのコマンド履歴を表示できます。また、コマンドの再発行も可能です。

コマンド履歴を表示するには、を使用します `history` コマンドを実行します

コマンドを再発行するには、を使用します `redo` 次のいずれかの引数を指定したコマンド。

- 前のコマンドの一部と一致する文字列

たとえば、のみの場合などです `volume` 実行したコマンドはです `volume show``を使用できます ``redo volume` コマンドを再実行します。

- 前のコマンドの数値ID。に表示されます `history` コマンドを実行します

たとえば、を使用できます `redo 4` 履歴リストの4番目のコマンドを再発行するコマンド。

- 履歴リストの末尾からの負のオフセット

たとえば、を使用できます `redo -2` 2つ前に実行したコマンドを再発行するコマンド。

たとえば、コマンド履歴の末尾から 3 番目のコマンドを再実行するには、次のコマンドを入力します。

```
cluster1::> redo -3
```

CLI コマンドを編集するためのキーボードショートカット

現在のコマンドプロンプトのコマンドは、アクティブなコマンドです。キーボードショートカットを使用して、アクティブなコマンドをすばやく編集できます。UNIX `tsch` シェルや Emacs エディタと同様のショートカットを使用できます。

次の表に、CLI コマンドを編集するためのキーボードショートカットを示します。「Ctrl +」は、Ctrl キーを押したまま、指定した文字を入力することを示します。「Esc-」は、Esc キーを押して離し、そのあとに指定した文字を入力することを示します。

| 状況 | 使用するキーボードショートカット |
|-------------------|-------------------|
| カーソルを 1 文字左に移動します | Ctrl+B キーを押下 |
| 戻る矢印 | カーソルを 1 文字右に移動します |
| Ctrl+F | 右矢印 |

| 状況 | 使用するキーボードショートカット |
|---|--|
| カーソルを 1 単語分左に移動します | ESC-B |
| カーソルを 1 単語分右に移動します | ESC-F |
| カーソルを行頭に移動します | Ctrl+A |
| カーソルを行末へ移動します | Ctrl+E |
| 行頭からカーソルまでの入力内容を切り取ってバッファに保存する 切り取りバッファは ' 一部のプログラムでは <i>clipboard</i> と呼ばれるのと同様に ' 一時的なメモリのよう | Ctrl+U キーを押下 |
| カーソルから行末までの入力内容を切り取ってバッファに保存する | Ctrl+K キーを押下 |
| カーソルから次の単語の末尾までを切り取ってバッファに保存する | ESC-D |
| カーソルの前の単語を切り取ってバッファに保存します | Ctrl+W キーを押下 |
| 切り取りバッファの内容を取得し、カーソルのコマンドラインに挿入します | Ctrl+Y キーを押下 |
| カーソルの前の文字を削除します | Ctrl+H |
| バックスペース | カーソル位置の文字を削除します |
| Ctrl+D を使用します | 行をクリアします |
| Ctrl+C キーを押します | 画面をクリアします |
| Ctrl+L キーを押下 | コマンドライン上の現在の内容を、履歴リストの前のエントリに置き換えます。 このキーボードショートカットを押すたびに履歴カーソルが 1 つ前のエントリに移動します。 |
| Ctrl+P キーを押下 | ESC-P |

| 状況 | 使用するキーボードショートカット |
|---|--|
| 上矢印 | コマンドライン上の現在の内容を、履歴リストの次のエントリに置き換えます。このキーボードショートカットを押すたびに履歴カーソルが次のエントリに移動します。 |
| Ctrl+N キーを押下 | ESC-N |
| 下矢印 | 部分的に入力されたコマンドを展開するか、現在の編集位置から有効な入力の一覧を表示します |
| タブをクリックする | Ctrl+I |
| 状況に応じたヘルプを表示します | ? |
| 疑問符 ("") の特殊なマッピングをエスケープします?"") character. For instance, to enter a question mark into a command's argument, press Esc and then the "?" 文字。 | ESC - ? |
| TTY 出力を開始します | Ctrl+Q キーを押下 |
| TTY 出力を停止します | Ctrl+S |

管理権限レベルの使用

ONTAP のコマンドとパラメータは、*admin*、*advanced*、*ddiagnostic* の 3 つの権限レベルで定義されます。権限レベルは、タスクの実行に必要なスキルレベルに対応しています。

- * admin *

このレベルではほとんどのコマンドとパラメータを使用できます。これらは、一般的なタスクまたはルーチンタスクに使用されます。

- * 詳細 *

このレベルのコマンドとパラメータは高度な知識を必要とし、あまり使用されません。不適切に使用すると、原因の問題につながる可能性があります。

高度なコマンドまたはパラメータを使用する場合は、必ずサポート担当者のアドバイスを受けてください。

- * 診断 *

診断コマンドおよびパラメータは、システム停止の原因になる可能性がありますこれらのコマンドは、サポート担当者が問題の診断と修正を行う場合にのみ使用します。

CLI で権限レベルを設定します

CLIで権限レベルを設定するには、を使用します `set` コマンドを実行します権限レベルの設定の変更は、現在のセッションにのみ適用されます。これらは、セッションをまたいで持続することはありません

手順

1. CLIで権限レベルを設定するには、を使用します `set` コマンドにを指定します `-privilege` パラメータ

権限レベルの設定の例

次の例は、権限レベルを `advanced` に設定してから、`admin` に設定します。

```
cluster1::> set -privilege advanced
Warning: These advanced commands are potentially dangerous; use them only
when directed to do so by NetApp personnel.
Do you wish to continue? (y or n): y
cluster1::*> set -privilege admin
```

CLI で表示環境を設定します

を使用して、CLIセッションの表示環境を設定できます `set` コマンドおよび `rows` コマンドを実行します設定した環境設定は、現在のセッションにのみ適用されます。これらは、セッションをまたいで持続することはありません

このタスクについて

次の CLI 表示環境を設定できます。

- コマンドセッションの権限レベル
- システムを停止させる可能性のあるコマンドについては確認を発行するかどうか
- かどうか `show` すべてのフィールドが表示されます
- フィールド区切り文字として使用する文字
- データサイズを報告するときのデフォルトの単位
- インターフェイスが出力を一時的に停止する前に、現在の CLI セッションで画面に表示する行数

行数を指定しない場合、端末の実際の高さに基づいて自動的に調整されます。実際の高さが定義されていない場合、デフォルトの行数は 24 です。

- デフォルトの Storage Virtual Machine (SVM) またはノード
- エラーが発生した場合に続行中のコマンドを停止するかどうか

手順

1. CLIの表示環境を設定するには、を使用します `set` コマンドを実行します

現在のCLIセッションで画面に表示する行数を設定するには、を使用することもできます `rows` コマンドを実行します

詳細については、のマニュアルページを参照してください `set` コマンドおよび `rows` コマンドを実行します

CLIでの表示環境の設定の例

次の例では、カンマをフィールド区切り文字として設定します。はを設定します GB デフォルトのデータサイズ単位として、行数を50に設定します。

```
cluster1::> set -showseparator "," -units GB
cluster1::> rows 50
```

クエリ演算子の使用方法

管理インターフェイスでは、クエリと UNIX 形式のパターンおよびワイルドカードがサポートされており、コマンドパラメータ引数の複数の値を照合できます。

次の表に、サポートされるクエリ演算子を示します。

| 演算子 | 説明 |
|--|--|
| * | すべてのエントリに一致するワイルドカード。 たとえば、コマンドなどです <code>volume show -volume *tmp*</code> 名前にこの文字列が含まれるすべてのボリュームのリストが表示されます <code>tmp</code> 。 |
| ! | NOT 演算子。 一致しない値を示します。例： <code>!vs0</code> 値と一致しないことを示します <code>vs0</code> 。 |
| OR演算子。 比較する2つの値を区切ります。 例： <code>`*vs0`</code> | <code>vs2*</code> <code>vs0</code> または <code>vs2</code> のいずれかに一致します。複数のORステートメントを指定できます。次に例を示します。 <code>`a`</code> |
| <code>b*</code> | <code>*c*</code> エントリと一致します <code>a</code> 、で始まるエントリ <code>b</code> 、およびを含むすべてのエントリ <code>c</code> 。 |
| 。 | 範囲演算子。 例： <code>5..10</code> の任意の値に一致します <code>5</code> 終了： <code>10</code> 、包括的。 |

| 演算子 | 説明 |
|---------|--|
| < | less-than 演算子。 例： <20 より小さい値に一致します 20。 |
| > | greater-than 演算子。 例： >5 より大きい任意の値に一致します 5。 |
| >= | less-than-or-equal-to 演算子。 例： ≤5 以下の値に一致します 5。 |
| >= | greater-than-or-equal-to 演算子。 例： ≥5 以上の値に一致します 5。 |
| {query} | 拡張クエリ。 拡張クエリは、コマンド名のあとで、他のパラメータの前の最初の引数として指定する必要があります。 たとえば、コマンドなどです <code>volume modify {-volume *tmp*} -state offline</code> 名前に文字列が含まれるすべてのボリュームをオフラインに設定します tmp。 |

クエリ文字をリテラルとして解析する場合は、文字を二重引用符で囲む必要があります（例： "<10"、"0..100"、"*abc*" または `a|b`）をクリックして、正しい結果が返されます。

特殊文字が解釈されないように、rawファイル名は二重引用符で囲む必要があります。クラスタシェルで 사용되는環境特殊文字もこれに該当します。

1つのコマンドラインで複数のクエリ演算子を使用できます。たとえば、コマンドなどです `volume show -size >1GB -percent-used <50 -vserver !vs1` 「vs1」という名前のStorage Virtual Machine (SVM) 内ではなく、サイズが1GBを超え、使用率が50%未満のすべてのボリュームが表示されます。

関連情報

["CLI コマンドを編集するためのキーボードショートカット"](#)

拡張クエリの使用方法

拡張クエリを使用して、指定した値を持つオブジェクトに対して操作を照合し、実行することができます。

拡張クエリは、中括弧（{ }）で囲んで指定します。拡張クエリは、コマンド名のあとで、他のパラメータの前の最初の引数として指定する必要があります。たとえば、名前に文字列が含まれるすべてのボリュームをオフラインに設定するには、を指定します `tmp` 次の例でコマンドを実行します。

```
cluster1::> volume modify {-volume *tmp*} -state offline
```

拡張クエリは通常、でのみ有効です modify および delete コマンド彼らには意味がありません create または show コマンド

クエリと変更操作の組み合わせは便利なツールです。ただし、原因を正しく実装しないと、混乱したり、エラーが発生する可能性があります。たとえば、（advanced権限）を使用する場合 system node image modify ノードのデフォルトのソフトウェアイメージを設定するコマンドを実行すると、他のソフトウェアイメージが自動的にデフォルトにならないように設定されます。次の例のコマンドは、実質的には NULL 操作です。

```
cluster1::*> system node image modify {-isdefault true} -isdefault false
```

このコマンドは、現在のデフォルトイメージをデフォルト以外のイメージとして設定してから、新しいデフォルトイメージ（以前のデフォルト以外のイメージ）をデフォルト以外のイメージに設定します。その結果、元のデフォルト設定が保持されます。正しく操作を実行するには、次の例のようにコマンドを使用します。

```
cluster1::*> system node image modify {-iscurrent false} -isdefault true
```

フィールドを使用した **show** コマンド出力のカスタマイズ方法

を使用する場合 -instance パラメータにを指定します show コマンドを使用して詳細を表示すると、出力に時間がかかり、必要以上の情報が含まれることがあります。。 -fields のパラメータ show コマンドでは、指定した情報のみを表示できます。

たとえば、実行中です volume show -instance いくつかの画面に情報が表示される可能性があります。を使用できます volume show -fields *fieldname[,fieldname...]* （常に表示されるデフォルトのフィールドに加えて）指定したフィールドのみが含まれるように出力をカスタマイズします。を使用できます -fields ? の有効なフィールドを表示します show コマンドを実行します

次の例は、の出力の違いを示しています -instance パラメータおよび -fields パラメータ：

```

cluster1::> volume show -instance

Vserver Name: cluster1-1
Volume Name: vol0
Aggregate Name: aggr0
Volume Size: 348.3GB
Volume Data Set ID: -
Volume Master Data Set ID: -
Volume State: online
Volume Type: RW
Volume Style: flex
...
Space Guarantee Style: volume
Space Guarantee in Effect: true
...
Press <space> to page down, <return> for next line, or 'q' to quit...
...
cluster1::>

cluster1::> volume show -fields space-guarantee,space-guarantee-enabled

vserver  volume  space-guarantee  space-guarantee-enabled
-----  -
cluster1-1 vol0    volume           true
cluster1-2 vol0    volume           true
vs1      root_vol
          volume           true
vs2      new_vol
          volume           true
vs2      root_vol
          volume           true
...
cluster1::>

```

位置指定パラメータについて

ONTAP CLI の位置指定パラメータ機能を活用して、効率的にコマンドを入力することができます。あるコマンドの位置指定パラメータは、そのコマンドのヘルプで特定できます。

位置指定パラメータとは何ですか

- 位置指定パラメータは、値を指定する前にパラメータ名を指定する必要のないパラメータです。
- コマンド入力には、位置指定パラメータとそれ以外のパラメータを組み合わせで指定できます。ただし、

に示すように、同じコマンド内の他の位置指定パラメータとの相対的な順序に従っている必要があります **`command_name`** ? 出力。

- 位置指定パラメータは、必須パラメータの場合とオプションパラメータの場合があります。
- あるパラメータが1つのコマンドでは位置指定パラメータで、別のコマンドでは位置指定パラメータでない場合もあります。



位置指定パラメータ機能をスクリプトで使用する場合は、特に位置指定パラメータがオプションパラメータである場合や、位置指定パラメータの前にオプションパラメータを指定する場合には推奨されません。

位置指定パラメータを特定します

位置指定パラメータはで特定できます **`command_name`** ? コマンド出力。位置指定パラメータは、次のいずれかの形式で、パラメータ名が角かっこで囲まれています。

- `[-parameter_name] parameter_value` は、必須の位置指定パラメータを示しています。
- `[[[-parameter_name] parameter_value]]` は、オプションの位置指定パラメータを示します。

たとえば、で次のように表示されているとします **`command_name`** ? の出力では、パラメータは該当するコマンドの位置指定パラメータです。

- `[-lif] <lif-name>`
- `[[[-lif] <lif-name>]]`

ただし、次の出力では、パラメータは該当するコマンドの位置指定パラメータではありません。

- `-lif <lif-name>`
- `[-lif <lif-name>]`

位置指定パラメータの使用例

次の例では、を使用しています **`volume create`** ? の出力から、このコマンドの3つのパラメータが位置指定パラメータであることがわかります。 `-volume`、`-aggregate`および`-size`。

```

cluster1::> volume create ?
    -vserver <vserver name>                Vserver Name
    [-volume] <volume name>                Volume Name
    [-aggregate] <aggregate name>          Aggregate Name
    [[-size] {<integer>[KB|MB|GB|TB|PB]]]  Volume Size
    [ -state {online|restricted|offline|force-online|force-offline|mixed} ]
                                           Volume State (default: online)
    [ -type {RW|DP|DC} ]                   Volume Type (default: RW)
    [ -policy <text> ]                     Export Policy
    [ -user <user name> ]                  User ID
    ...
    [ -space-guarantee|-s {none|volume} ]   Space Guarantee Style (default:
volume)
    [ -percent-snapshot-space <percent> ]   Space Reserved for Snapshot
Copies
    ...

```

次の例では、を使用しています `volume create` 位置指定パラメータ機能を使用せずにコマンドを指定します。

```

cluster1::> volume create -vserver svml -volume vol1 -aggregate aggr1 -size 1g
-percent-snapshot-space 0

```

次の例では、位置指定パラメータ機能を使用して効率的にコマンドを入力しています。位置指定パラメータとそれ以外のパラメータがの中に散在しています `volume create` コマンド、および位置指定パラメータの値は、パラメータ名なしで指定します。位置指定パラメータは、と同じ順序で指定します **volume create ?** 出力。つまり、の値です `-volume` はの前に指定されます `-aggregate` をクリックします。これは、の前に指定されています `-size`。

```

cluster1::> volume create vol2 aggr1 1g -vserver svml -percent-snapshot-space 0

```

```

cluster1::> volume create -vserver svml vol3 -snapshot-policy default aggr1
-nvfail off 1g -space-guarantee none

```

ONTAP マニュアルページへのアクセス方法

ONTAP のマニュアル（マニュアル） ページでは、ONTAP CLI コマンドの使用方法が説明されています。これらのページはコマンドラインから入手でき、リリース固有の `_コマンドリファレンス_` でも公開されています。

ONTAP コマンドラインで、を使用します `man command name` コマンドを使用して、指定したコマンドのマニュアルページを表示します。コマンド名を指定しない場合は、マニュアルページのインデックスが表示されます。を使用できます `man man` コマンドを使用して、に関する情報を表示します `man` コマンド自体。マニュアルページを終了するには、と入力します **q**。

を参照してください [使用しているONTAP 9のバージョンに対応するコマンドリファレンス](#) を参照して、ご使用のリリースで使用可能な管理者レベルおよびアドバンスレベルのONTAP コマンドの詳細を確認してください

い。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。